



「音の日」と「音の匠」について

一般社団法人日本オーディオ協会 諮問委員・「音の日」実行委員長

もり
森
よしひさ
芳久



一般社団法人日本オーディオ協会（Japan Audio Society 通称JAS）は「豊かなオーディオ文化を広め、楽しさと人間性あふれた社会を創造する」という基本理念を掲げ、オーディオとオーディオビジュアルに関連する法人会員及び個人会員が力を合わせオーディオ文化の発展と市場創造を65年にわたり努めてきました。1994年その活動の一環として、日本オーディオ協会は日本レコード協会や日本音楽スタジオ協会などと手を携え、音とオーディオ及び音楽文化の重要性を広く一般に認識してもらうこと、また産業のさらなる発展に寄与することを目的とし、12月6日を「音の日」記念日として制定いたしました。

(https://www.jas-audio.or.jp/events_cat/sound-day)

今から140年前の1977年12月6日、発明王トーマス・エジソンが世界初の円筒式錫箔蓄音機「フォノグラフ」を発明し、まさにこの日はオーディオ文化の誕生記念日でもあります。そこで1994年より毎年この日に日本オーディオ協会ならびに関係団体がこぞって「音の日」記念日のイベントを催してきました。今日では、特別セミナーや技術カンファレンスなどのほか、第3回「音の日」記念日からはじめました「音の匠」の顕彰と紹介が大きなイベントとなっています。

(https://www.jas-audio.or.jp/events_cat/takumi)

これは音の文化や音を通じて社会に貢献している人を掘り起こし「音の匠」として顕彰するもので、過去には「鉄道線路の不具合をハンマー音で聞きわけ日々鉄道運行の安全を支える」JRの保線係針谷昭（はりがやあきら）氏、「NTTの時報、NTTdocomo留守番電話サービス、銀行や郵便局のATMの音声案内など明瞭で親しみのある声の持ち主」ナレーター中村啓子（なかむらけいこ）氏、「優れた

聴覚と音響技術を用いて水道の水漏れを感知する耳職人」東京都水道局給水課の方々、「イルカの鳴き音によるコミュニケーション方法や生息域に依存する鳴き音の違いなどを明らかにした音とイルカ研究の第一人者」森阪匡通（もりさかたみち）氏、「クモの糸で高音質のバイオリン弦を製作した」奈良県立医科大学名誉教授大崎茂芳（おおさきしげよし）氏、など多くの方を顕彰しマスコミにも取り上げられました。そして昨年第22回「音の匠」には「長年スタジオ機器や建築音響設計に従事し、アビーロードスタジオやルーカスフィルムスタジオなど世界・国内の著名スタジオを手がけた」四日市大学名誉教授豊島政實（とよしまさみ）氏を顕彰いたしました。

こうして昨年までに30名の個人と3団体の「音の匠」が誕生しています。「音の日」や「音の匠」の認知度はまだ高いとは言えませんが、年々TV紹介やマスコミ取材も増え、おかげさまで徐々にではありますが着実に浸透してきています。今年四半世紀を迎える「音の日」の記念イベント、また新しい「音の匠」誕生に、皆さまからの大いなるご声援をお願いいたします。



■「音の日」のキャラクター Soundy君



■写真 「音の匠」ナレーター中村啓子氏。その明瞭で暖かみのある発声から多くの公共の場で彼女の声が使われている。また朗読CDも数多く発売されている。